

## 平成27年度(2015年度) 施政方針



町田市長 石阪丈一

# 町田の未来を 育てる

平成27年(2015年) 第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は3月2日の本会議で施政方針を表明しました。

ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページをご覧ください。

企画政策課 ☎724・2103 FAX050・3085・3082

### 2015年度の 市政運営の視点

日本社会全体で、超高齢化、人口減少が進展する中、町田市の経済、市民生活、そして財政はどうなっていくのか、現在の財政状況と将来の人口構成や財政収支を見通しながら、持続可能な自治体経営のあり方を再構築し、その将来像の実現に向けた取り組みを進めていかなければなりません。

現在、地方の自治体では人口減少が進み、市役所の機能が維持できないという状況が顕在化しつつあります。何もしなければ、今、地方の自治体で起きている状況が、10年後の町田市の姿となってしまっています。

それを超えるため必要なことは、これまでの行政サービスをゼロから見直し、未来を創造するための施策として再構築することです。

同時に、まちの将来のビジョンを明確に示し、将来を見据えた投資、持続可能な人口構成を保持するための若い世代を呼び込む施策、町田市の豊かな地域資源を開花させる施策を、積極的に展開していくことが必要です。更に、将来の社会像に対応した都市基盤の更新も進めていかなければなりません。

2014年度は、「未来への種まき」の年と位置づけました。2015年度は、厳しい財政状況の中でも息吹いた芽を大切に育て、未来に大きな花を咲かせるための取り組みを進めてまいります。

### 2015年度の 重要な取り組み

#### 「未来づくりプロジェクト」

「商業集積とあふれる緑」という多様性、「まちの持つ雰囲気や味わい」など、町田が持つ多彩な魅力を大きく羽

ばたかせるべく、取り組みを進めています。

「地域社会づくりのプロジェクト」では、新たな地域社会の仕組みである「地区協議会」が、小山、町田第二、鶴川、木曽、相原の5地区で設立されました。地区協議会では、町内会・自治会、民生委員や、NPO等さまざまな地域の担い手が一堂に会して、地域の課題を自ら解決し、地域の魅力の向上と発信に取り組んでいます。

「団地再生のプロジェクト」では、本町田中学校と本町田西小学校の跡地に私立学校を誘致します。若年層を呼び込み、新たな交流や賑わいを創出し、団地地区を再活性化します。

「町田駅周辺のプロジェクト」では、芹ヶ谷公園を、町田駅周辺の回遊性と賑わいを創出する場、芸術の薫りあふれる文化芸術を発信する「芸術の杜」として再整備することで、周辺地域一帯の魅力を

一層高めてまいります。

「みどりのプロジェクト」では、薬師池公園の周辺地域を一つの公園として捉え、四季を通して花と風景、回遊を楽しむ「町田薬師池公園四季彩の杜」として、魅力ある公園整備を進めてまいります。



町田薬師池公園四季彩の杜

「基幹交通機能のプロジェクト」は、多摩都市モノレールの町田方面延伸と小田急多摩線延伸について、2015年度に予定されている国の交通政策審議会の次期答申において確実な位置づけがなされるよう、国、東京都、各事業者に強く訴えてまいります。

#### 「資源循環型施設」

鶴間地区のごみ収集運搬中継基地「リレーセンターみなみ」に、2016年4月から容器包装プラスチック圧縮梱包施設を整備し、JR横浜線の南側地域では、市全域に先行して容器包装プラスチックの分別収集を開始します。

町田リサイクル文化センター敷地内に新たに整備する焼却施設、バイオガス化施設については、施設の整備・運営に関わる事業者の選定や環境影響調査を行い、工事が着手に向けて準備を進めてまいります。

### 2015年度の 主要な施策

#### 将来を担う人が育つまちをつくる

子ども・子育て関連3法が制定され、子育て支援に係る制度の枠組みが変更されたことを受けて、2015年度は、子ども・子育て支援施策の大きな転換点となる年です。

市では、「町田市子ども・子育て支援事業計画」を新たに策定し、2015年度からの5か年で、特に0～2歳児の保育ニーズに対して、計画的、集中的に事業を実施してまいります。

この中で2015年度は、認可保育所等の整備を行い、138人の定員増を図り、待機児童を解消します。

鶴川第一小学校は、来年4月の新校舎使用開始に向けて改築工事を進めています。改築後の床面積は約1.7倍となり、多様な学習内容・形態に対応できます。

#### 安心して生活できるまちをつくる

2015年度から、新たに第6期町田市介護保険事業計画がスタートします。この計画では、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」によるまちづくりを推進します。

昨今、登下校中の児童・生徒が被害を受ける事件が全国

で相次いでいます。こういった状況を受け、児童・生徒が安全・安心に通学できるよう、2015年度から4か年で、すべての小学校の通学路に防犯カメラを設置します。

また、市、警察、不動産業界の3者で「危険ドラッグ対策に関する覚書」を締結しました。危険ドラッグは、「売らない、買わない、使用しない」のはもちろんですが、今回の覚書により、危険ドラッグを販売・製造する者を市内から排除します。

#### 賑わいのあるまちをつくる

市民の皆さんが町田市に誇りを持つことができ、市外の皆さんに町田市の魅力を感じていただくには、町田市の良さや強み、優位性を生かした情報発信の強化と都市のブランド化が重要です。

このため、昨年8月に『まちだ自慢』サポーターを結成しました。町田を愛する方々がサポーターとなり、町田の魅力を自ら発見し、市内外に情報発信していただいています。インターネットや広報紙、口コミ等を利用し、町田を知る人ならではの魅力を発信していきます。



『まちだ自慢』サポーター

2020年東京オリンピック・パラリンピックについては、子どもたちの夢をかなえ、スポーツボランティアの活躍をはじめとしたスポーツの推進、コミュニティの強化、観光振興等、キャンプ地招致へ向けた活動による成果を、「オリンピックレガシー(遺産)」として残していきたいです。

このため、2015年度は「(仮称)キャンプ地招致推進市民会議」を新たに発足させ、町田市の強みを積極的にアピールし、力強く取り組んでまいります。

#### 暮らしやすいまちをつくる

町田市が、未来に向けて発展し続ける都市であるため、企業や人から選ばれ続ける都市であるために、その先導的役割を担う都市機能の更新を急がなければなりません。

南町田駅周辺は、都市を更新する最適な時期を迎えています。東急電鉄をパートナーとし、鶴間公園と商業施設を合わせて再整備を行うことで、他の都市にはない魅力的な賑わい空間を創出します。

相原駅周辺は、2014年12月に、慢性的に渋滞する大戸踏切の立体交差化を含めた町田街道の拡幅事業に着手しました。2015年度は、相原駅西口に約5200㎡の駅前広場が完成し、新たにバスターミナルを整備します。

鶴川駅周辺については、交通を円滑に処理し、安全の確保や利便性を増進するため、新たなバスターミナルの整備等を進めてまいります。

多摩境駅は、2015年度から2か年で、かねてより要望のあったロータリーから改札階までのエレベーターを新たに設置します。

#### むすびに

将来の人口減少、超高齢化、生産年齢人口の減少といった課題を克服するためには、それぞれの都市らしさに基づく創意工夫が必要だと考えています。そのため「町田らしさ」を生かしたまちづくりを進め、魅力を高めることで、町田市が選ばれる都市となり、結果として持続可能な人口構造の保持や市民の雇用の確保につながっていきます。



せりがや冒険遊び場で遊ぶ子どもたち

我々には、今の子どもたちの未来を創っていく責任があります。町田市の未来を育てる取り組みを推し進め、町田市が持っている可能性を開花させることで、未来を切り開く確かな一歩を踏み出し、成長と発展を未来につなげていく責任をしっかりと果たしていく所存です。

市民の皆さんのご理解と協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。